

# レノボとニュータニックス、 ハイパーコンバージドシステムで協業

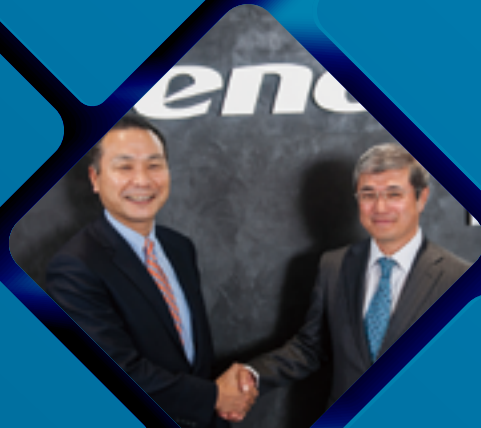
年率60%増、急成長する  
次世代インフラ市場で両社が目指すものとは

Lenovo™

NUTANIX™

IDC  
*Analyze the Future*

【日経BP】ITpro Special



# 注目のハイパーコンバージドシステムの市場開拓に挑む、レノボとニュータニックス

2016年1月26日、レノボ・ジャパンは米ニュータニックスの仮想化ソフトウェアを搭載したハイパーコンバージドシステムを日本市場に投入すると発表した。ハイパーコンバージドシステムは、ストレージを内蔵したサーバーをネットワークで接続し、処理能力やストレージ容量を簡単かつ安価にスケールアウトできるもので、データ量が爆発的に増える企業コンピューティングの世界の新たなインフラとして注目されている。今回の協業の背景や狙い、日本市場での展開、最新の市場動向などについて、レノボ、ニュータニックス、そしてIT専門調査会社のIDC Japanに話を聞いた。



左から、IDC Japanの宝出幸久氏、レノボ・ジャパンの安田稔氏、ニュータニックス・ジャパンの安藤秀樹氏、レノボ・ジャパンの早川哲郎氏

## 年率60%で成長し続ける次世代インフラ市場

ハイパーコンバージドシステムは『日経 SYSTEMS』の「ITインフラテクノロジー AWARD 2016」でグランプリに選出されるなど、急速に注目度が高まっています。IDCとしては、今の動向にいてどのように捉えていますか。

**宝出** IDCでは、クラウド、ビッグデータ／アナリティクス、モビリティ、ソーシャル技術を、メインフレーム、クライアント／サーバーに続く、次世代のITプラットフォームである「第3のプラットフォーム」として位置づけています。今後は、こうした第3のプラットフォームの技術を利用し、新しい製品やサービス、新しいビジネスモデル、新しい関係を通じて価値を創出し、競争上の優位性を確立する「デジタルトランスフォーメーション」に取り組む組織が増加すると見えています。

2014年から2019年の年間平均成長率は59.7%と非常に高い成長率で市場が拡大すると予測しています。



IDC Japan 株式会社  
エンタープライズ インフラストラクチャ  
マーケットアナリスト  
宝出幸久氏

第3のプラットフォームを支えるITインフラには、新しいワークロードへの対応や大量のデータを活用してビジネス価値を生み出すとともに、迅速なサービス提供や高い拡張性、高いサービスレベルが求められています。しかし、課題があります。それは、企業のIT予算やIT管理リソースの大幅な拡充は難しいケースが多いことです。

この課題に対応するためには、自動化などによって運用管理を効率化し、限られたリソースの中でビジネスの変化に対応できるITインフラへと変革することが求められます。こうしたニーズに対応すべく、サーバー、ストレージ、ネットワーク機器といったサブシステムを集約し、一括で構築や管理できるコンバージドシステムが登場しました。また、コモディティ化したサーバーをソフトウェアで抽象化し管理することで、ワークロードに最適なITリソースが動的かつ迅速に提供可能な「Software-Defined Infrastructure」への注目も高まっています。ハイパーコンバージドシステムは、この両者の特徴を併せ持ったものとして登場し、急速に普及しています。

実際にどの程度普及しているのでしょうか。

**宝出** ハイパーコンバージドシステムの市場は急速に拡大しています。全世界では、2014年1年間の売上額が4億ドル弱だったのに対して、2015年は1月から9月までで6億ドルを超えています。また、日本国内でも2014年の売上額が13億円弱であったのに対して、2015年は1月から9月までで30億円強となり、急速に市場が立ち上がっています。

今後の見通しとしては、全世界での売上額は、2019年に

急速な成長が見込まれる  
ハイパーコンバージドシステム市場

図1



は約 39 億ドルになり、2014 年から 2019 年の年間平均成長率 (CAGR) は 59.7% と非常に高い成長率で市場が拡大すると予測しています (図 1)。

.....  
年率 60% の伸びとは、まさに急成長している市場ですね。  
.....

**安田** 当社は IBM からサーバー事業を受け継いだわけですが、サーバー事業の業績は好調に推移していて、ワールドワイドでは 2020 年まで年率 10% 程度の成長を見込んでいます。この市場では価格競争がますます厳しくなりますが、堅実に事業を展開していけると確信しています。

その一方で重要なのが、成長分野を開拓することです。そこで注目していたのが、次世代インフラの領域でした。コンバージドシステムやハイパースケールシステム、ハイパーコンバージドシステムの分野です。これは今の業績にアドオンできる新しい事業であり、高い成長率が期待できることもわかっていました。

## 相互の強みを持ち寄って Win-Win の関係を構築

.....  
次世代インフラの中でハイパーコンバージドシステムは  
どんな位置づけになるのでしょうか。  
.....

**安田** モバイル、ソーシャル、IoT と企業システムのデータ量は増える一方です。これをどこに収めれば良いのか。SAN は高価であり、手間もかかります。そこで、まず注目されるようになったのがコンバージドシステムとハイパースケールシステムです。

こうした流れの中で、ハイパーコンバージドシステムが登場してきました。それを可能にしたのが、CPU の高性能化と仮想化ソフトウェアの技術的な進化です。速くなった CPU のパワーですが、通常は 20% 程度しか使われていません。一方、サーバーは VMware などによるサーバー仮想化技術によって簡単にスケールアウトができるようになりました。ただし、それだけですとストレージが取り残されてしまいます。SDS のテクノロジーを使ったサーバーとストレージを同時にスケールアウトできるハイパーコンバージドシステムであれば、CPU の処理能力の増強と処理能力をそのままにストレージを拡張できる、という 2 つのメリットを提供することができるのです。

この 2 つの技術的な進化に加えて、今回、ニュータニックスという格好のパートナーとタッグを組むことができました。コンバージドシステムの分野で No.1 のシェアを誇るニュータニックスであれば、安心してハイパーコンバージドシステムという新しい事業を展開できると考えました。

.....  
ニュータニックスにとってレノボとタッグを組む  
メリットはどこにあるのでしょうか。  
.....

**安藤** 当社はソフトウェアベンダーであり、サーバーベンダーを OEM として選ぶことができます。その中で今回レノボと連携することにしたのは、大きく 2 つの理由があります。

1 つはハードウェア製品の競争力です。ハードウェアの世界では常に先進の技術が実装されていなければ価値はありません。そのためには規模の経済が必要です。グローバル規模で事業を展開し、製品の信頼性も高く、保守力にも定評のあるレノボはベストパートナーといえます。

もう 1 つは市場戦略力です。レノボのサーバー製品のライ

**コンバージドシステムの分野で No.1 のシェアを誇るニュータニックスであれば、安心してハイパーコンバージドシステムという新しい事業展開ができると考えました。**



レノボ・ジャパン株式会社  
執行役員専務  
安田稔氏

グローバル規模で事業を展開し、製品の信頼性も高く、保守力にも定評のあるレノボはベストパートナーといえます。



ニュータニックス・ジャパン合同会社  
日本法人代表 マネージングディレクター  
安藤秀樹氏

ンナップ、販売チャンネル、IBM から受け継いだ顧客基盤、市場のカバレッジも幅広く、あらゆる業種、あらゆる企業規模のお客様を持ち、販売パートナーもそれに対応しています。サーバーからストレージまでのスキルも豊富で、当社単体でカバーできないところを補ってもらうことができます。

## 既存のチャンネルを活かして 新しい市場を開拓する

日本市場における成長性や優位性は  
どんなところにあるとお考えでしょうか。

**安田** もともとIBMのユーザーだったお客様は、すでにサーバーの仮想化に取り組んでいる企業が多く、その延長線上にあるハイパーコンバージドシステムも提案しやすいと思います。仕組みがわかっているため、ニュータニックスの仮想化ソフトウェアのメリットや信頼性についても理解してもらえそうです。

**早川** 当社のパートナー企業は、お客様の状況がよくわかっているのも大きな強みです。どんな課題をお持ちなのか、どんなシステム構成なのか、いつリプレースの時期を迎えるのか、そういうことがわかったうえで、最適なタイミングで最適なソリューションを提案できます。設定や導入のスキルも十分に持っています。また、レノボも今までと同様に24時間365日体制で保守サービスを提供していきますから、お客様にもパートナーにも安心してご利用いただけます。

**安藤** 高信頼性のハードウェアと充実した保守サービスには大きく期待しています。いろいろなケースに対応し、多様なワークロードに応えることができるのではないのでしょうか。当社にはないレノボの顧客基盤の実績は今後のビジネス成長

にとって頼もしいと感じています。

**宝出** レノボは全世界のx86サーバー市場で高いシェアを持っています。また、国内のチャンネルパートナーを通じて、幅広い顧客にリーチできるという強みがあります。一方で、ニュータニックスはハイパーコンバージドシステム市場のリーディングベンダーであり、先行して実績を積み重ねています。

この両社がタッグを組むことによって、幅広い顧客にハイパーコンバージドシステムが提供可能となり、国内ハイパーコンバージドシステムの成長を加速させるでしょう。

**安田** 今後は両社が協力し、ワールドワイドで専門のセールスとテクニカルのチームを組織し、ハイパーコンバージドシステムの市場拡大に取り組んでいきます。サーバー製品の信頼性には自信があります。そのため、市場自体が大きくなれば自然と当社の業績向上にもつながるはずですよ。

**安藤** レノボはサーバー市場での売り方を熟知していますし、実績も持っています。ハイパーコンバージドシステムの市場が広がれば、そこでシェアを獲得するのは当然です。当社も専門チームのトレーニングやセールス資料の整備に取り組んでおり、スピードを上げて協業を発展させていきたいと考えています。

24時間365日体制で保守サービスを提供していきますから、お客様にもパートナーにも安心してご利用いただけます。



レノボ・ジャパン株式会社  
レノボ・サーバー・エバンジェリスト  
ソリューションスペシャリスト部 部長  
エンタープライズ・ビジネス・グループ  
早川哲郎氏

# これまでの企業システムの常識を覆す コンバージドシステムのメリットとは

## 後編

前編では、レノボとニュータニックスのハイパーコンバージドシステムでの提携を受け、その背景や製品の特長、市場動向などについてお伝えした。しかし、ハイパーコンバージドシステムは、EMCやHP、VCEテクノロジー・ソリューションズなどからも製品が提供されている。これらの競合製品に対し、レノボ×ニュータニックス製品の差別化ポイントはどこにあるのだろうか。後編ではハイパーコンバージドシステムはどのような分野に向いているのか、そこでの両社の強みはどこにあるのか、日本市場にどうアプローチしていくのかなどを中心に話を聞いた。



左から、IDC Japanの宝出幸久氏、レノボ・ジャパンの安田稔氏、ニュータニックス・ジャパンの安藤秀樹氏、レノボ・ジャパンの早川哲郎氏

## サイジングを気にせずに 導入してから拡張できる

ハイパーコンバージドシステムには  
どんなメリットがあるのでしょうか。

**安藤** とくにかくシステムの拡張が楽にできるということです。当初、ハイパーコンバージドシステムはVDI（仮想デスクトップ環境）として導入されることが多く、まず少人数でパイロット的に入れてからから広げていく方法が主流でした。その際に、ハイパーコンバージドシステムがいかに拡張しやすいかを実感してもらっただけで次の展開につながっていきました。

2年前はVDIが売上の6割を占めていましたが、現在は3割まで下がっています。ハイパーコンバージドシステム市場の伸びに伴い、当社の売上自体が増加したところもありますが、当社の製品の用途がデータベースやERPなどにも広がっていることがその要因となっています。

**早川** ハイパーコンバージドシステムの基盤となっている技術は、もともとGoogleやFacebookといった特定の企業で利用されてきた仮想化技術です。コモディティ化されたサーバーを使ってCPUやストレージを安く簡単に増設することができます。それを企業向けに適用したのがニュータニックスでした。

システム構築にあたって企業の情報システム部門が気にするのはサイジングです。5年後を睨んでどれくらいのシステム性能やストレージ容量が必要なのかを見積もるわけですが、

ここで問題になってくるのがストレージの容量です。データ量が爆発的に増えることを前提にサイジングすると大変な金額になってしまいます。そこで拡張性に優れたハイパーコンバージドシステムが注目されるようになってきました。多くの大企業の情報システム部門は、ハイパーコンバージドシステムの有効性に気づいています。

**宝出** IDCが2015年12月に発表した国内調査結果でも、ハイパーコンバージドシステムを「導入済み/検討中」とした回答が全体の3割を超えています。導入理由の上位には「ハードウェアコストの削減が可能」「運用管理の複雑性が解消できる」「導入/構築が迅速にできる」「高額な外付け型ストレージの投資削減」といったことが挙げられています。

また、利用の用途についても広がっていることがわかりました。先ほどお話があったように、ハイパーコンバージドシステムは、当初はVDIが中心でしたが、直近の国内調査結果では、利用用途の1位は「データベース」で、2位が「デスクトップ仮想化(VDI)」となりました。続いて、ERPやCRM、SCMといった「ビジネスアプリケーション」が3位になっています(図2)。

### ハイパーコンバージドシステムの利用用途が拡大

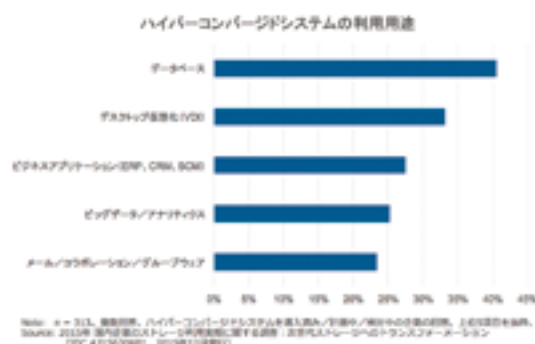


図2

## すべての仮想環境を 一元的に管理できる

.....  
このように用途が広がる中で、  
レノボとニュータニックスの  
強みはどんなところにあるのでしょうか。  
.....

**早川** 当社はハードウェアに特化したベンダーとして、パソコンからサーバー、そしてモバイルまで幅広い製品を展開していますが、ストレージビジネスのシェアはそれほど大きくありません。だからこそ、ハイパーコンバージドシステムに注力することができるのです。

そこで前面に押し出したいのが、ストレージなどの運用がシンプルになるというハイパーコンバージドシステムのメリットです。先ほど「大企業は有効性に気づいている」と話しましたが、こちらはスケラビリティの観点ですね。中堅・中小企業や地方の企業が困っているのは運用管理のところ。IT専任担当者がいない企業でも、ハードウェアの違いを意識する必要がないハイパーコンバージドシステムであれば、簡単に運用することができます。

たとえば「Lenovo Converged HX Series」は、電源を入れるだけで仮想環境を利用することができ、アップグレードやメンテナンスの作業もサービスを停止させることなく行えます。ストレージの増設も欲しい時に欲しいだけ増やせます。

**宝出** 国内のITインフラ管理者には兼務が多いといった特徴があります。IDCの調査結果では、ストレージを管理している人で、ストレージ専任は18.5%でした。一方、サーバー、ストレージ、ネットワークの兼務が44.8%、サーバーとストレージの兼務が25.9%となっています。

**安藤** 当社の製品の強みはインフラ運用を支援する機能を提供している点にあります。仮想化ソリューションである「Acropolis」は、分散ストレージ機能、仮想マシン管理、Acropolis Hypervisorから構成されます。例えば分散ストレージ機能はサーバーに内蔵されたハードディスクやSSDをソフトウェアによって束ね1つの仮想的な共有ストレージにすることができますし、従来のSANやNASを必要とせずにデータ重複排除などのストレージ機能を提供し、エンタープライズアプリケーションも迅速に展開・実行することができます。

また、管理ソリューションである「Prism」はあらゆる仮想環境をエンドツーエンドで一元的に管理できます。単一の管理画面に仮想マシンやハードウェアの状況を表示することが

でき、仮想マシンの配置やストレージの容量、拡張や障害対応、更新作業といったオペレーションを簡単に行うことができます。

**早川** ニュータニックスはオンプレミス、パブリックに関係なくクラウドとの親和性が高いのが特徴です。その機能を活用すればハイブリッドクラウドも構築しやすい。そこに私たちも注目しています。

## No.1 同士の提携によって 適用領域のさらなる拡大を

.....  
今後の日本市場での展開についてお聞かせください。  
.....

**安藤** 今、ハイパーコンバージドシステムの適用領域はVDI以外にも大きく広がろうとしています。特に、データベースやERP、CRM、SCMといった領域ではレノボのこれまでの経験やパートナー企業のチャネルを活かせるはず。これらの領域のソリューションを提供することが、ニュータニックスの価値を広げていくことにつながります。

こうした基幹系のシステムは、リプレースのタイミングなど足の長いビジネスが多いとは思いますが、まずは各業界で第1号ユーザーを獲得し、使ってもらうことが大事だと思います。

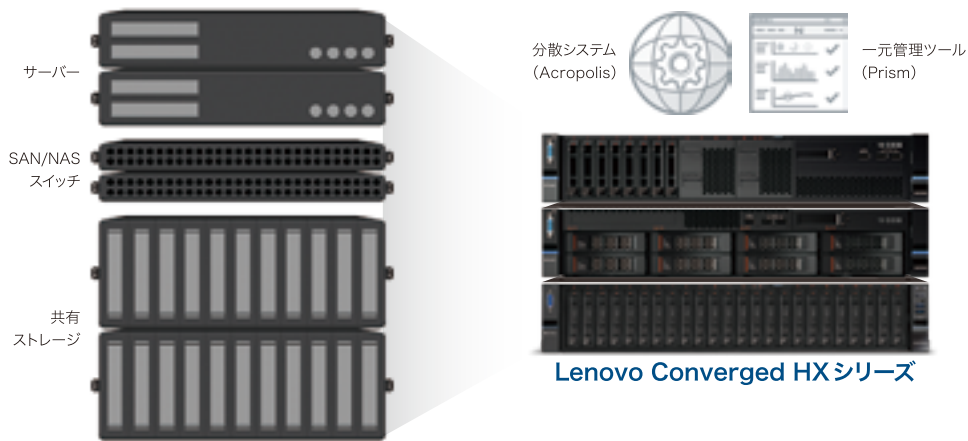
**早川** 当社はハードウェアやOSの信頼性を調査しているITICの調査で3年連続でNo.1になるなど、ハードウェアには絶対の自信を持っています。今回の協業は、シェアNo.1のニュータニックスと信頼性No.1のレノボというNo.1同士がタッグを組んでハイパーコンバージドシステムを提供していく取り組みの第1弾です。

このソリューションの良さを知ってもらうには、まずは私たち自身がスキルを身につけることが大切です。そこで企業向けの営業担当全員に、ニュータニックスのソフトウェア認定資格の取得を義務付けました。今後はこれをパートナー企業へと展開し、販売体制を強化していきます。

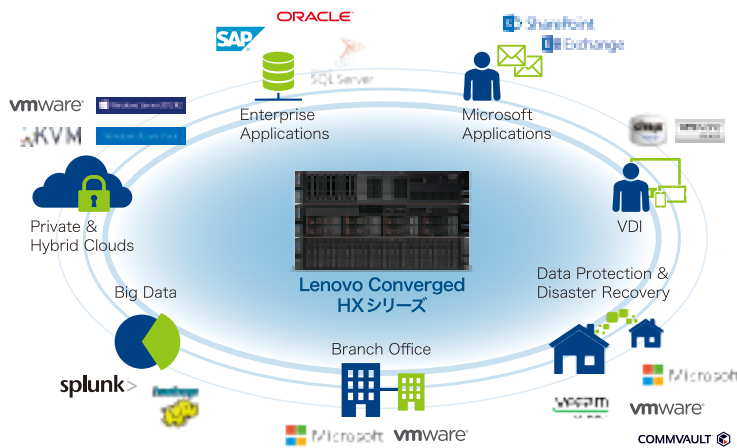
**安田** 第1フェーズはパートナー企業の中でも限定されたところから始めて、全国に展開していくことになると思います。加えて、ハイパーコンバージドシステムによって蓄えたデータを活用するためのアナリティクスやディープラーニングのソリューションもパートナーと一緒に準備していきます。こうして次から次へと段階を踏んで進んでいくことが、ニュータニックスとの関係性をより深めることにつながると考えています。ぜひ、両社の今後の展開にご期待ください。

# Lenovo Converged HXシリーズとは

- レノボ・コンバージド・HXシリーズは、Nutanix社のAcropolisおよびPrismソフトウェアを搭載したアプライアンス製品
- Google®、Facebook®、そしてAmazon™といったクラウドインフラストラクチャーで採用されている数多くの最先端テクノロジーを採用
- 信頼性の高いSystem xサーバーをベースに2 Uラックマウント型の3モデル(HX3500/HX5500/HX7500)を提供
- 最小構成は3ノードから、以後1ノード単位で拡張が可能
- 新規導入やノード拡張を最短30分で実現
- デスクトップ仮想化、アプリケーション仮想化、サーバ仮想化、ビッグデータ基盤、また災害対策、(DR/ディザスタリカバリー)、データベース (MS、Oracle、SAP) といった多様なワークロードにおける数多くの稼働実績



## 主な仮想化ワークロード



### 様々なワークロードに適用!

- VDI環境、リモートオフィス環境、ディザスタリカバリーなど仮想化ワークロードに最適化されます。
- ビッグデータ、Splunk、プライベートクラウド、クラスタ環境のバックアップなど、比較的大きな容量を必要とするサーバ仮想化ワークロードに最適化されます。
- エンタープライズ・アプリケーション (MS SQL Server、MS Exchange、Oracle RAC) など、データベースほか大量のデータ入出力を伴うワークロードに最適化されます。

## 製品ラインナップ



モデル	Converged HX3500	Converged HX5500	Converged HX7500
プラットフォーム	2U 8x2.5" drives	2U 8x3.5" drives	2U 24x2.5" drives
ワークロード	コンピュータ・ヘビーなワークロード向けに設計 VDIや業務アプリケーションワークロードに最適	ストレージ・ヘビーなワークロード向けに設計 仮想化アプリケーションやビッグデータに最適	ハイ・パフォーマンス・ワークロード向けに設計 DBやI/O性能依存のアプリケーションに最適
ハイパーバイザーオプション	Nutanix Acropolis (デフォルト) / VMware ESXi 5.5 U2 or 6.0		
ライセンスオプション	Nutanix Starter, Pro および Ultimate ライセンス		

# Lenovo Converged HXシリーズのビジネスメリット

## ● インフラストラクチャーのコスト予測が可能:

リニアなスケールアウトを実現するアーキテクチャーにより、IT上の要求やプロジェクトコストを容易に想定可能

## ● データセンターの効率向上:

単一のインフラストラクチャー上ですべてのアプリケーションを稼働されることが可能となり、ITのサイロ化を回避

## ● 設備投資 (CAPEX) および運用コスト (OPEX) の低減:

サーバーとストレージの統合によりデータセンターの機器、電源、冷却のコストを低減

## ● ビジネス成長に合わせた拡張が可能:

データセンターの拡張に合わせ必要な時に必要分だけリソースを追加することが可能

## ● シンプルなIT運用管理:

サーバ・ストレージ・仮想マシンの監視・運用管理機能を単一の画面に統合し、ソフトウェアの更新も数クリックで完了



HXシリーズ紹介デモをレノボ秋葉原オフィスにて実施中!

ノード追加は極めてシンプル  
Prism管理WebUIから数ステップ  
でクラスターノードの追加・拡張が可能

1. 物理ノードを増設
2. WebUIにログイン
3. ノードの自動検出
4. 追加ノードの選択
5. CVM,AHV,IPMIのIPアドレス指定
6. ノード追加、容量増加されたことの確認



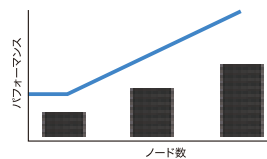
設備投資 (CAPEX) および 運用コスト (OPEX) の低減

サーバーとストレージの統合により、データセンターの設備、電力、冷却に関わるコストを低減



リニアなスケールアウトを実現

ノード追加をすることで、パフォーマンスの向上、ストレージ容量の増設、メモリ容量の増設が可能



HXシリーズには、サードパーティのクラウド管理システムと連携できるよう、REST APIが提供されており、災害対策でパブリック・クラウド連携の機能が予め組み込み済み

## IT運用管理の大幅なシンプル化と効果

### 設計 → 導入 → 運用 → 拡張

3ティアシステムで必要だった設計が不要となり、拡張を想定したサイジングも不要

機器設置後、約30分程度で仮想化基盤の構築が可能

単一の管理ツールで運用監視およびソフトウェア/ファームウェアを無停止で更新可能

キャパシティ監視から予測される拡張計画が容易に可能

主な運用効率の向上



85% 迅速



71% 削減



98% 削減

## ビジネス上のメリット

拡張性に優れたスケールアウト型アーキテクチャーにより、ビジネスの成長に合わせて柔軟にデータセンターの拡張が可能。サーバーとストレージの統合により、データセンターの設備、電力、冷却に関わる設備投資 (CAPEX) および 運用コスト (OPEX) の低減を実現

主なビジネスメリット



510%



7.5 ヵ月



58%

Lenovo

レノボ・ジャパン株式会社

〒101-0021  
東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX

法人のお客様向け見積依頼・ご購入相談窓口

0120-68-6200

受付時間:  
月曜日から金曜日9時から17時30分  
(祝日および年末年始休業日を除く)